

社会資本総合整備計画（第1回変更）

おおづ まち なんぶ かんこう ちく
大津町南部観光地区都市再生整備計画

令和元年8月
熊本県大津町

(参考様式2) 社会資本総合整備計画（市街地整備）

令和2年7月31日

計画の名称	1 大津町南部観光地区都市再生整備計画										重点配分対象の該当							
計画の期間	平成28年度～令和3年度（6年間）					交付対象	熊本県大津町											
計画の目標	以下に掲げる小目標を達成する事で、『白川に育まれた自然・文化を味わい みんなが楽しむことができる田園の里』の実現を目指す。 目標①：江藤家住宅を核として、南部観光地区の観光拠点の形成と回遊性の向上 目標②：住民を主体に、歴史・文化を醸成し、地域の賑わいや住む場としての魅力の再生																	
計画の成果目標（定量的指標）																		
・「江藤家住宅訪問者数」を625人（H26）から1,000（H32）⇒① ・「地域コミュニティづくりに対する満足度」を54.7ポイント（H26）から56.7ポイント（H32）⇒②																		
定量的指標の定義及び算定式							定量的指標の現況値及び目標値			備考								
							当初現況値 （当初）	中間目標値 （H30末）	最終目標値 （R3末）									
南部観光地区の観光拠点となる「江藤家住宅の訪問者数」							625	700	1,000									
大津町が実施する「まちづくりアンケート」において、“地域コミュニティづくりの満足度”に対する意識調査で満足度に対するポイント（満足＝100、やや満足＝75、どちらとも言えない＝50、やや不満＝25、不満＝0とした時の平均値）							54.7	55.7	56.7									
全体事業費	合計 （A＋B＋C＋D）		407.0百万円	A	407.0百万円	B	－	C	－	D	－	効果促進事業費の割合 C／（A＋B＋C＋D）	－					
交付対象事業																		
A 基幹事業																		
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 （百万円）	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考		
1-A-1	都市再生	一般	大津町	直接	大津町	大津町南部観光地区都市再生整備計画事業	道路、（仮称）南部地区交流広場等	大津町	H28	H29	H30	H31	R2	R3	407.0			
合計															407.0			
B 関連社会資本整備事業（該当なし）																		
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 （延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 （百万円）	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考		
									H28	H29	H30	H31	R2	R3				
合計																		
C 効果促進事業（該当なし）																		
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）				全体事業費 （百万円）	備考				
									H28	H29	H30	H31	R2	R3				
合計																		
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考			
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業（該当なし）																		
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （面積等）	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 （百万円）	備考				
									H28	H29	H30	H31	R2	R3				
合計																		
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考			

交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H28	H29	H30	H31	
配分額 (a)	17.1	12.3	11.4	29.6	
計画別流用 増△減額 (b)	0.0	0.0	0.0	0.0	
交付額 (c=a+b)	17.1	12.3	11.4	29.6	
前年度からの繰越額 (d)	0.0	3.6	7.9	4.0	
支払済額 (e)	13.5	8.0	15.3	18.1	
翌年度繰越額 (f)	3.6	7.9	4.0	15.5	
うち未契約繰越額 (g)	0.0	0.0	0.0	0.0	
不用額 (h = c+d-e-f)	0.0	0.0	0.0	0.0	
未契約繰越＋不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
未契約繰越＋不用率が10%を超えている 場合その理由					

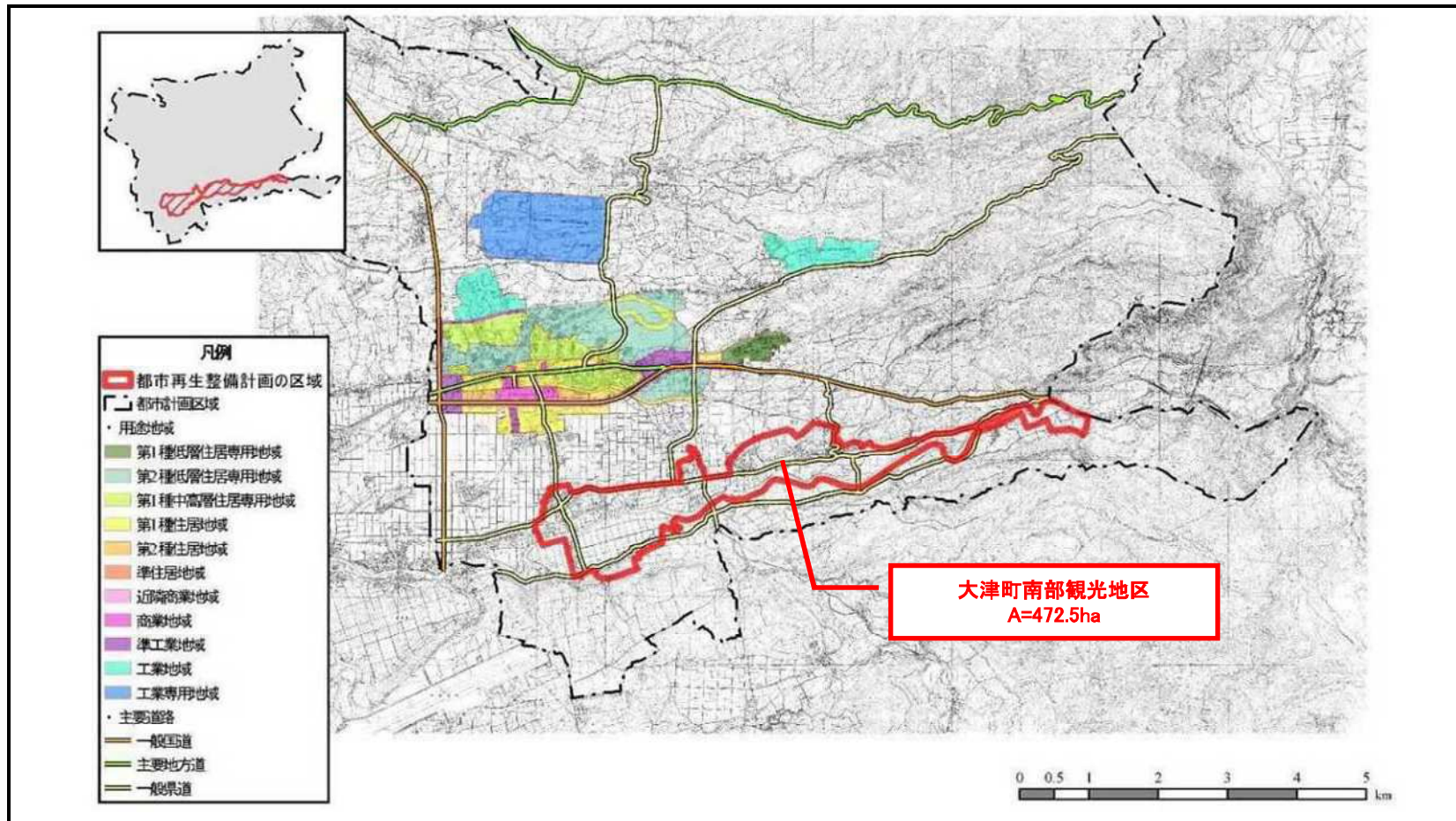
※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。
※ 平成28年度は、決算額が確定でき次第記載。

大津町南部観光地区(熊本県大津町)

面積

472.5 ha

区域



都市再生整備計画(第1回変更)
大津町南部観光地区

熊本県 大津町

令和元年8月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォークアブル推進事業	☐

目標及び計画期間

様式(1)～②

都道府県名	熊本県	市町村名	大津町	地区名	大津町南部観光地区	面積	472.5 ha
計画期間	平成 28 年度 ～ 令和 3 年度	交付期間	平成 28 年度 ～ 令和 3 年度				

目標

大目標：『白川に育まれた自然・文化を味わい みんなが楽しむことができる田園の里』

目標①：江藤家住宅を核として、南部観光地区の観光拠点の形成と回遊性の向上

目標②：住民を主体に、歴史・文化を醸成し、地域の賑わいや住む場としての魅力の再生

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・阿蘇から流れてくる白川の水、岩戸溪谷、俵山など自然資源に恵まれている。しかし、白川を活用したレクリエーション機能などは少ない。
- ・自然資源を十分に活用・管理していくためには、自然を活かした企画の発案や、維持管理対策の検討が求められる。
- ・岩戸神社、江藤家住宅、岡本家住宅は歴史があり、大津町の観光スポットになっている。しかし、現在の認知度はあまり高いとは言えず、今後の対策が求められる。
- ・魅力的な文化・自然資源は多く分布するが、情報の発信、組織（資源）の連携が不足している。特に、観光資源のPRが個別では限界があるため、資源の一体性や回遊性を高める取り組みが求められる。
- ・当地区は自然に恵まれ、田園風景や白川、俵山など美しい景観が存在する。そのため、住民にとっての心地よい景観を維持管理することも求められる。
- ・集落地では、道路が狭く、災害時の避難路の確保や安全性の向上が求められる。

課題

課題①：自然と歴史の魅力を上向きに、互いに連携しながら回遊性を高めることが求められる。

- ・大津町南部の地域には、白川を背景に田園地帯が広がっており、東部には俵山や岩戸溪谷がある。これらの自然景観を保全するとともに、多くの人が訪れるような新たな魅力を創出することが求められる。
- ・歴史のある建造物が存在しているが知名度は高いとはいえず、個々のPRや魅力を創出することが求められる。
- ・観光資源の個々の魅力のPRIには限界がある。したがって自然資源と歴史資源の連携を深めることが求められる。また、地域の連携を深め町民で協力してのPRをし、回遊性を高めることが望まれる。

課題②：人と人との連携によるにぎわいの形成と安全・安心な都市空間の創出が求められる。

- ・ずっと住みたい、住み続けたい地区の形成に向けて、地区のつながりを強化し、住むことの愛着を育てていく事が重要となる。
- ・住民の多くが利用する、公共施設の老朽化が進んでいる。公共施設が老朽化することにより、安全性や利便性が低下し住民が安心して使用することが困難になりつつある。またこれらの施設は、住民のコミュニティの形成、高齢者の生きがいづくりなど、住民にとって有益なものでもあるため、改善が求められる。
- ・集落地内では道路が狭く、公園等の都市基盤が脆弱な地区がある。災害時での避難・救助活動の円滑化を図るため、生活道路等の整備が必要である。

将来ビジョン（中長期）

【大津町振興総合計画】

- ・「みんなでつこう 元気 大津 人と自然にやさしい 心かよいあう まち」を基本理念として、人づくり、地域づくり、身近な道路づくり、まちの顔（中心市街地）づくり、環境にやさしいまちづくり、観光産業づくり、安全・安心のまちづくりに重きを置いて取り組みを位置づけ
- ・住みよいまちづくりとして、あらゆる年齢層の人たちが安心・快適に暮らすことができる憩いの場やインフラの整備を位置づけ
- ・都市活力面として、企業誘致、酒店の進出の推進を位置づけ
- ・観光面として、自然、歴史をいかし、伝統的な祭やイベントに個性を持たせる方針を位置づけ

【大津町都市計画マスタープラン】

- ・「田園景観にとけ込むおいしい空間」を将来像として設定し、○拠点機能の充実、○集落地の環境整備、○田園景観、森林の保全・活用、を目標に位置付け
- ・土地利用においては、白川流域の水田地帯など田園景観の保全や北向谷や瀬田裏原野など、まちの緑のフレームをなす豊かな自然の維持・保全を位置づけ。また、屋敷林や生垣等の保全や田園風景と一体となった集落地の形成を位置づけ
- ・交通体系においては、各種幹線道路整備のほか、コミュニティ活動、防災活動の軸となる生活道路の形成や白川沿いの水と緑のネットワークの形成を位置づけ
- ・都市施設等の整備については、白川沿いの自然公園の整備、岩戸の里周辺の拠点整備の他、地域コミュニティの活性化に向けた学校施設等の有効活用を位置づけ

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
江藤家住宅訪問者数	人/年	大津町が実施する「江藤家住宅訪問者数」の年間訪問者数	江藤家住宅を核として南部観光地区の観光拠点の形成と回遊性の向上を示す指標	625	H26	1,000	R3
地域コミュニティづくりに対する満足度	ポイント	大津町が実施する「まちづくりアンケート」において、“地域コミュニティづくり”の満足度の割合	住民を主体に、歴史・文化を醸成し、地域の賑わいや住む場としての魅力の再生を示す指標	54.7	H26	56.7	R3

整備方針等

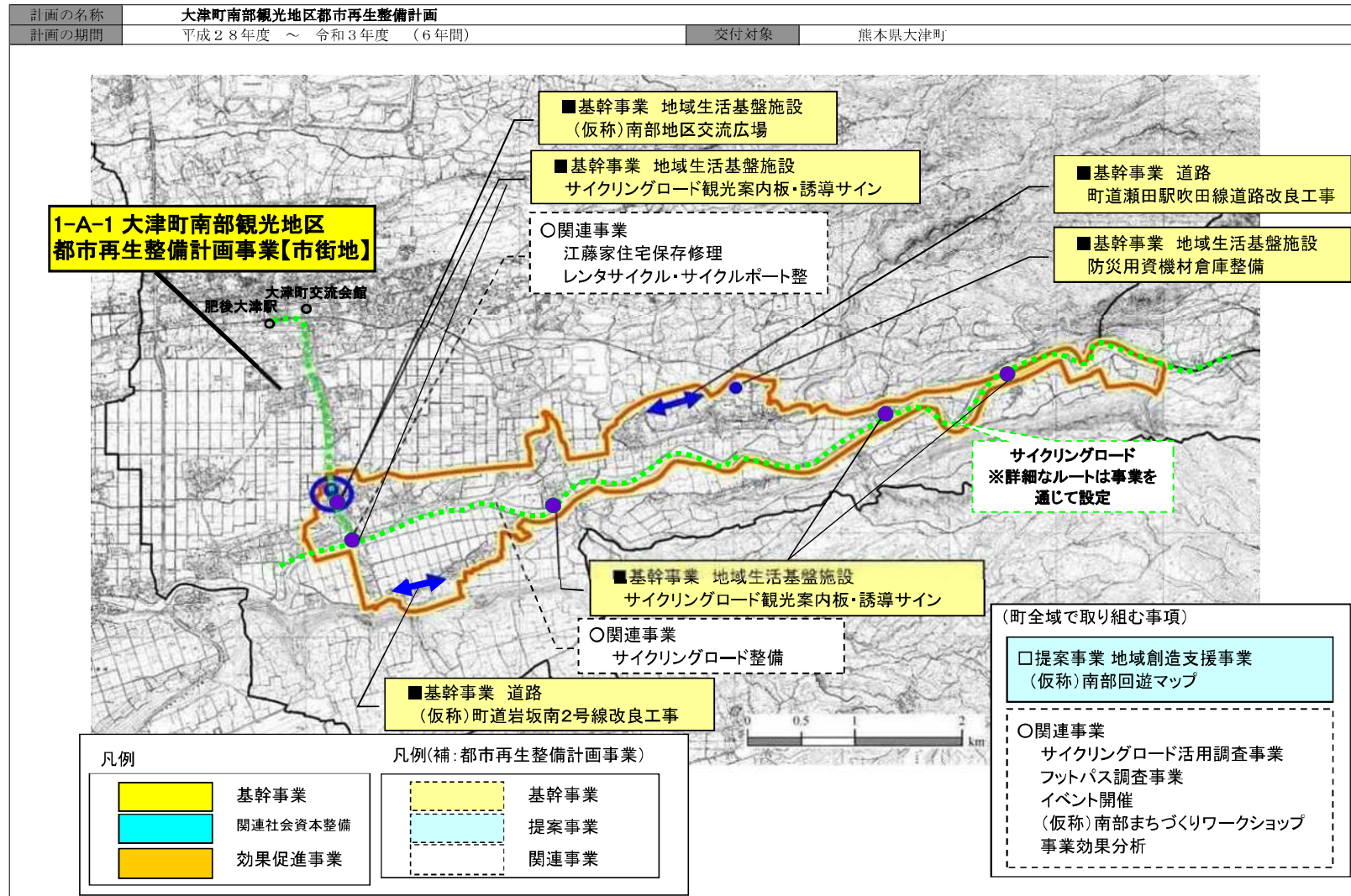
様式(1)-③

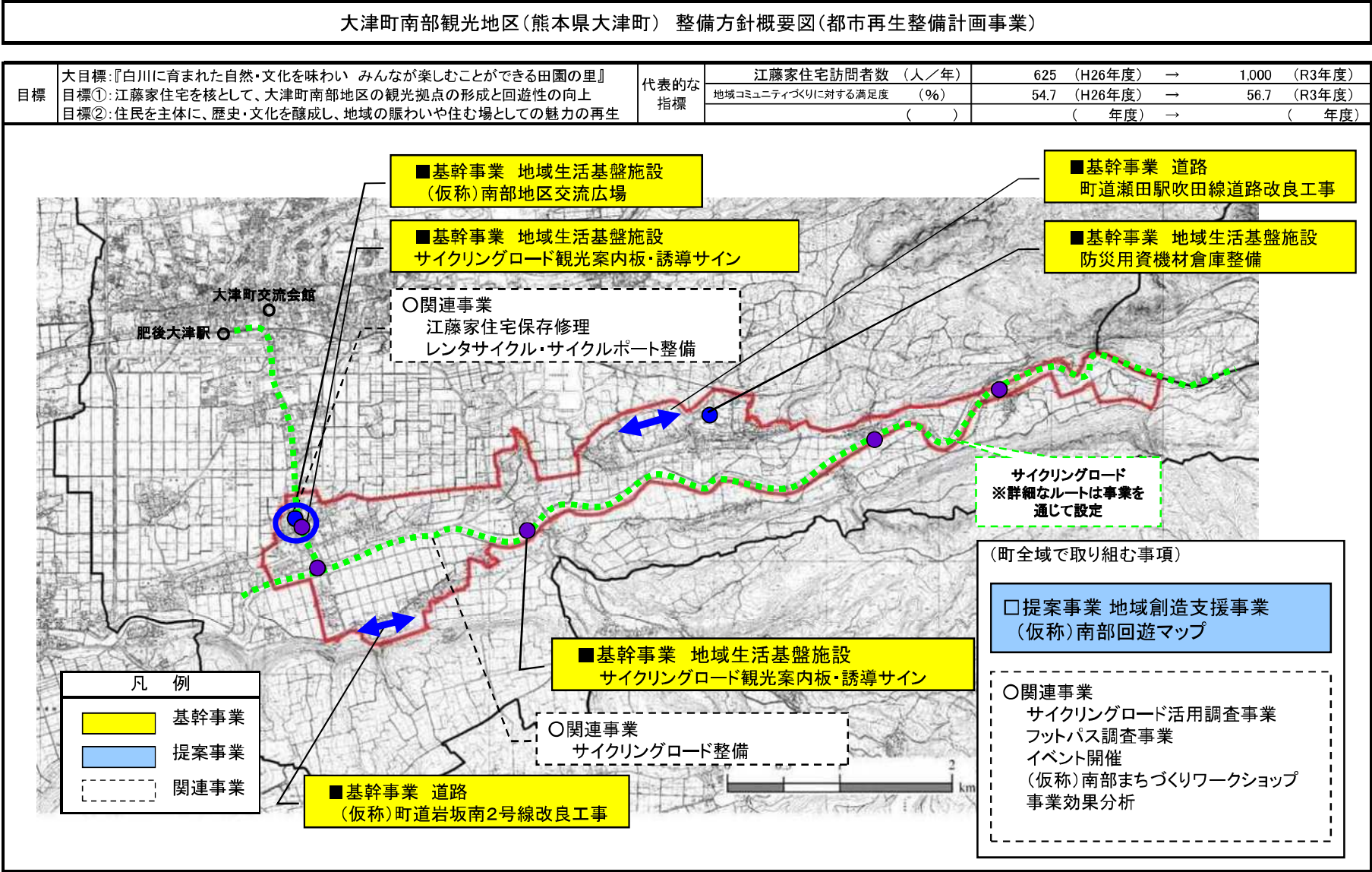
計画区域の整備方針	
【江藤家住宅を核として、南部観光地区の観光拠点を形成する】 ・大津町の中核的な文化資源となる江藤家住宅(国指定文化財)の保存活用事業にあわせ、地区周辺整備やまちづくり活動を推進し、南部観光地区の観光拠点として整備を進める。 ・江藤家住宅へ訪れる人の憩い空間、様々なイベント活動が開催出来る(仮称)南部地区交流広場を整備する。なお、当スペースは、地域住民の活動拠点及び避難場所としての活用を図るなど、観光交流、地域交流、災害等の緊急避難場所としての整備を進める。 ・(仮称)南部地区交流広場の整備に当たっては、江藤家住宅や周辺と調和した景観に配慮した整備を行う。 ・南部観光地区の観光拠点として、集客力の向上や回遊性の向上を図るため、住民との協働によるまちづくりを進める。	方針に合致する主要な事業 ○江藤家住宅保存修理(関連事業) ■(仮称)南部地区交流広場(基幹事業／地域生活基盤施設)
【江藤家住宅と周辺地域との連携を促進し、回遊性の向上を図る】 ・本町の交通拠点、観光の起点となる中心部(肥後大津駅、大津町交流会館(まちづくり交流センター)や南部に点在するその他文化資源との連携により、南部観光地区をゆっくり・のんびり・楽しく回遊できる空間の創出を図る。 ・南部観光地区の文化及び自然資源を結ぶサイクリングロードの整備を進める。サイクリングロードの整備にあたっては、白川沿いを軸に、阿蘇の眺望、白川流域の田園風景、また岩戸の里をはじめ、点在する自然・歴史文化を”見て、聞いて、触れ合って楽しむ場”として整備を進める。 ・文化・自然資源の情報発信や資源が点在する地区へ誘導するため、観光案内板や誘導サインを整備する。 ・地区の回遊性向上に向けて、観光ルートとなるサイクリングロードの構築に向けたモニター調査、住民ワークショップの開催の他、(仮称)回遊マップ(※南部サイクルマップ)等の作成を進める。また、フットパス調査事業等との連携を図り、南部地区の四季折々の山の恵みを感じ、楽しみながら散策できるルートの整備を進める。 ・自転車による回遊性の一層の向上を図るため、レンタサイクルや各観光拠点にサイクルポート(基地)を整備する。	○サイクリングロード整備(関連事業) ○サイクリングロードモニター調査(関連事業) ■サイクリングロード観光案内板・誘導サイン(基幹事業／地域生活基盤施設) □(仮称)南部回遊マップ(南部サイクルマップ)作成(提案事業／地域創造支援事業) ○フットパス調査事業(関連事業) ○レンタサイクル・サイクルポート整備(関連事業)
【住民を主体に、歴史・文化を醸成し、地域の賑わいや住む場としての魅力を再生する】 ・住民との協働によるまちづくりのもと、住む人・訪れる人が大津の魅力を再発見し、保全・活用へ繋げる仕組みを整備する。特に、地域の活力やコミュニティの維持・推進を図るためにも、地域住民が主体となった文化財保護、新たな観光ツールの創出、維持・管理方策の検討を進める。 このため、まちづくりワークショップを開催し、地域住民自らが、地域の文化を守り、育てる取組みについて検討する。 ・また、江藤家住宅を守る既存組織とも連携し、江藤家住宅の維持・活用、及び南部地区の観光まちづくりを推進する。 ・江藤家住宅の情報発信、集客力向上に向けて、新たなイベントの開催を検討する。また、南部地区の拠点づくりのため、地域交流イベントや避難訓練等の実施を進める。 ・地域の賑わいに加え、定住の場として魅力的な市街地形成を図るため、災害時における緊急車両の円滑な通行と、地域住民の避難経路の確保、また地域の安全安心な市街地形成に向けた町道を整備する。 ・過去の豪雨災害を踏まえ、白川、上井手、下井手の氾濫想定地区に住む地区住民の自助・共助・公助による災害対策に向けて、避難施設、備蓄倉庫、災害防止対策の整備を進める。 ・当該事業の効果を検証するため、事業評価を実施する。	■町道瀬田駅吹田線(道路改良)(基幹事業／道路) ■(仮称)町道岩坂南2号線(道路改良)(基幹事業／道路) ■防災用資機材倉庫整備事業(基幹事業／地域生活基盤施設) ○(仮称)南部まちづくりワークショップ(関連事業) ○イベント開催(関連事業) ○事業効果分析(関連事業)
その他	
方針に合致する主要な事業 ■・・・基幹事業 □・・・提案事業 ○・・・関連事業	

様式(1)-④-2

交付対象事業費		407	交付限度額		162.8	国費率		0.4	(金額の単位は百万円)						
基幹事業															
事業	細目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費	費用便益比 B／C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
道路		(仮称)町道岩坂南2号線	大津町	直	L=500m	H29	R2	H29	R2	110	110	110	110	110	—
道路		町道瀬田駅吹田線	大津町	直	L=600m	H30	R3	H30	R3	136	136	136	136	136	—
公園															
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設		(仮称)南部地区交流広場	大津町	直	2,100㎡	H28	R3	H28	R3	135	135	135	135	135	—
地域生活基盤施設		サイクリングロード観光案内板・誘導サイン	大津町	直	10箇所程度	H31	R2	H31	R2	6	6	6	6	6	—
地域生活基盤施設		防災用資機材倉庫整備事業	大津町	直		H29	H29	H29	H29	15	15	15	15	15	—
高質空間形成施設															
高次都市施設	地域交流センター														
	観光交流センター														
	まちおこしセンター														
	子育て世代活動支援センター														
	複合交通センター														
既存建築物活用事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業															
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共居住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										402	402	402	0	402	—
…A															
提案事業															
事業	細目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
地域創造 支援事業	(仮称)南部回遊マップ	—	大津町	直	—	R2	R2	R2	R2	5	5	5	5	5	5
事業活用調査															
まちづくり活動 推進事業															
合計										5	5	5	0	5	…B
														合計(A+B)	407
(参考)関連事業															
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費				
					直轄	補助 ○	地方単独	民間単独	開始年度	終了年度					
江藤家住宅保存修繕	江藤家住宅	国他	文化庁					H28	R4	1,400					
サイクリングロード整備	白川沿い他	大津町					○	H28	R3	9					
サイクリングロード活用調査事業		大津町					○	H28	R3	1					
レンタサイクル・サイクルポート整備	江藤家住宅周辺他	大津町		20台他			○	H30	R3	11					
フットバス調査事業		大津町					○	H26	R3	1					
イベント開催		大津町					○	H31	R3	3					
事業効果分析		大津町					○	R4	R4	5					
(仮称)南部まちづくりワークショップ		大津町					○	H26	R3	3					
合計										1,429					

(参考図面) 市街地整備





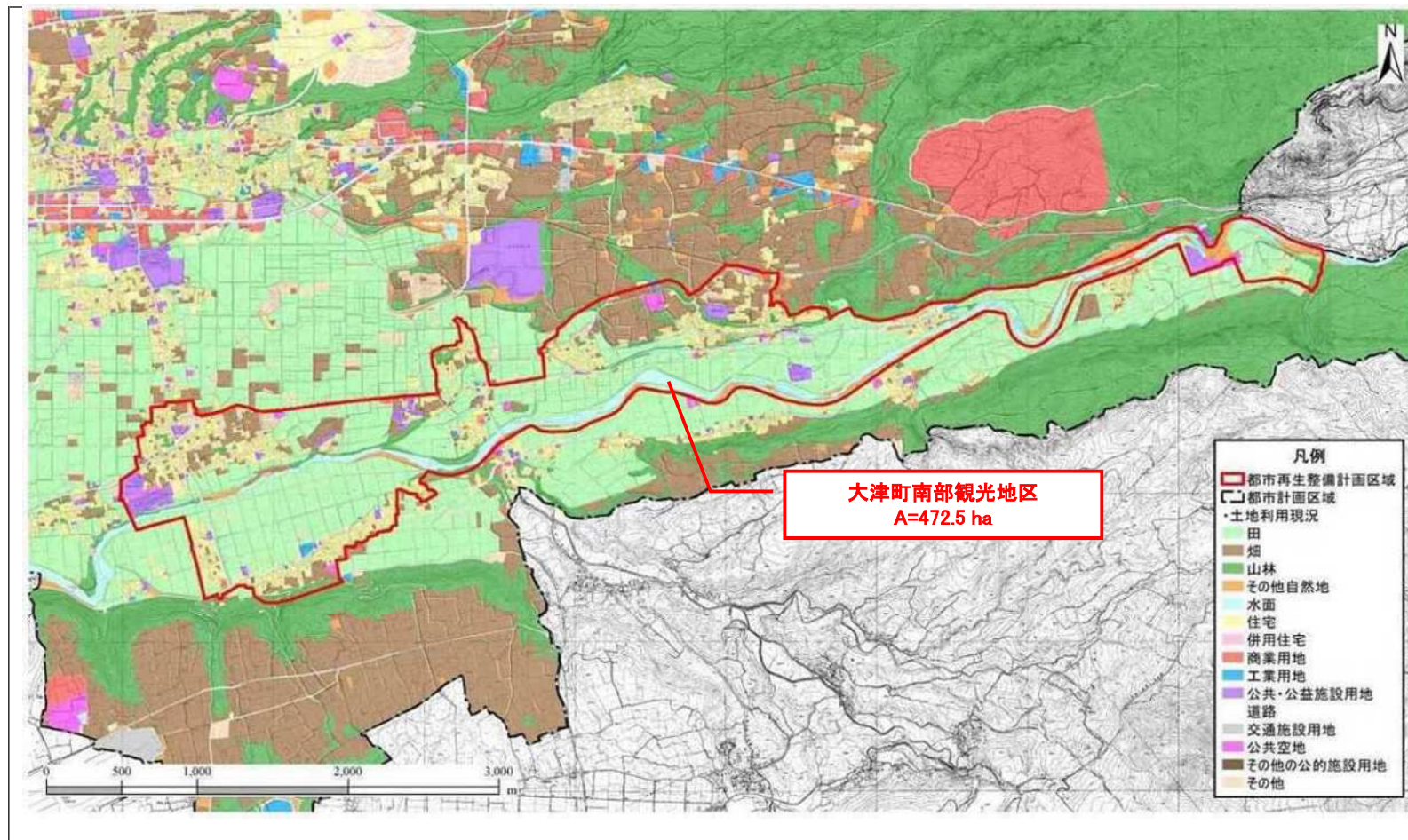
都市再生整備計画の添付書類等(第1回変更)

交付対象事業別概要

おおづまち なんぶ かんこう ちく
大津町南部観光地区

くもとけんおおづまち
(熊本県大津町)

大津町南部観光地区(熊本県大津町) 現況図



交付限度額算定表(その1)

大津町北部癒しの里地区（熊本県大津町） 様式(2)-③

各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額の合計(X)	162.8 百万円	規則第16条第1項に基づく交付限度額(Y)	140,066.0 百万円	X≦Yゆえ、	本計画における交付限度額	162.8 百万円
-----------------------------	-----------	-----------------------	---------------	--------	--------------	-----------

規則第16条第1項に基づく限度額算定

Au	1,890,000 m ²						
公共施設の上限整備水準							
区域面積(m ²)	4,725,000						
当該区域の特性に応じて国土交通大臣が定める割合	<table border="1"> <tr> <td>区域の面積が10ha未満の地区</td><td>0.50</td></tr> <tr> <td>最近の国勢調査の結果による人口集中地区内</td><td>0.45</td></tr> <tr> <td>その他の地域</td><td>0.40</td></tr> </table>	区域の面積が10ha未満の地区	0.50	最近の国勢調査の結果による人口集中地区内	0.45	その他の地域	0.40
区域の面積が10ha未満の地区	0.50						
最近の国勢調査の結果による人口集中地区内	0.45						
その他の地域	0.40						

CI	157,248 円/m ²
単位面積あたりの標準的な用地費	
標準地点数	11
公示価格の平均値(円/m ²)	29,455
単位面積あたりの標準的な補償費	
当該区域内の戸数密度(戸/m ²)	0.001
標準補償費(円/戸)	44,000,000

Cf	23,000 円/m ²
-----------	-------------------------

控除額

0 百万円

まちづくり交付金とは別に国庫補助事業等により整備する施設

施設名(事業名)	面積(㎡)	国庫補助事業費等(百万円)
合計	0	0

各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額(活用する交付金の欄のみご記載ください。)

<都市構造再編集中支援事業>	
交付限度額(X1)	百万円
<都市再生整備計画事業>	
交付限度額(X2)	162.8 百万円
<まちなかウォーカブル推進事業>	
交付限度額(X3)	百万円

Ap

335844 m²

公共施設の現況整備水準

整備水準が明らかになっている類似市街地等からの推定

推定現況整備水準(小数第2位まで)

推定公共施設面積(m²)

0

個別公共施設の積み上げ

	面積(m ²)	割合
道路	294,513	0.06
公園	19,734	0
広場	21,597	0
緑地	0	0
公共施設合計	335,844	0.07

Cnを考慮しない場合の交付限度額(Y1)	140,066 百万円
-----------------------------	-------------

ΣCn	0 円
下水道	0 円
区域面積(m ²)	4,725,000
うち現況の供用済み区域面積(m ²)	
標準整備費(円/m ²)	3,600

地域交流センター等の公益施設(建築物)	0 円
上限床面積(m ²)	9,400
標準整備費(円/m ²)	409,455

調整池	0 円
調整池の容積(m ³)	
標準整備費(円/m ³)	140,000

河川	0 円
河川整備延長(m)	
標準整備費(円/m)	3,700,000

住宅施設	0 円																		
建設予定戸数(戸)	<table border="1"> <tr> <td>超高層</td><td> </td></tr> <tr> <td>一般</td><td> </td></tr> <tr> <td>合計</td><td>0</td></tr> </table>	超高層		一般		合計	0												
超高層																			
一般																			
合計	0																		
標準整備費(円/戸)	<table border="1"> <tr> <td>超高層</td><td>一般</td></tr> <tr> <td>北海道特別地区</td><td>41,310,000</td></tr> <tr> <td>北海道一般地区</td><td>38,190,000</td></tr> <tr> <td>特別地区</td><td>49,120,000</td></tr> <tr> <td>大都市地区</td><td>37,170,000</td></tr> <tr> <td>多雪寒冷地区</td><td>41,510,000</td></tr> <tr> <td>奄美地区</td><td>39,520,000</td></tr> <tr> <td>沖縄地区</td><td>30,280,000</td></tr> <tr> <td>一般地区</td><td>33,700,000</td></tr> </table>	超高層	一般	北海道特別地区	41,310,000	北海道一般地区	38,190,000	特別地区	49,120,000	大都市地区	37,170,000	多雪寒冷地区	41,510,000	奄美地区	39,520,000	沖縄地区	30,280,000	一般地区	33,700,000
超高層	一般																		
北海道特別地区	41,310,000																		
北海道一般地区	38,190,000																		
特別地区	49,120,000																		
大都市地区	37,170,000																		
多雪寒冷地区	41,510,000																		
奄美地区	39,520,000																		
沖縄地区	30,280,000																		
一般地区	33,700,000																		

市街地再開発事業による施設建築物	0 円
施設建築物の延べ面積(m ²)	
標準共同施設整備費(円/m ²)	132,000

電線共同溝等	0 円
電線共同溝等延長(m)	
標準整備費(円/m)	680,000

人工地盤	0 円
人工地盤の延べ面積(m ²)	
標準整備費(円/m ²)	5,300,000

協議して額を定める大規模構造物等		0 円
大規模構造物等	協議状況	整備費(円)

Cnを考慮した場合の交付限度額(Y2)	140,066 百万円
----------------------------	-------------

交付限度額算定表(その2)(都市再生整備計画事業)

大津町北部癒しの里地区 (熊本県大津町) 様式(2)-④-2

社会資本整備総合交付金交付要綱に掲げる式による限度額算定(詳細)

※水色のセルに事業費等必要事項を入力して下さい。(百万円単位)

単位: 百万円

○交付対象事業費(必ず入力)

交付対象事業費	基幹事業合計(A)	402,000.000	A (事業費)	⇒	1)式で求まる額(4/10*(A+B))	162,800.000	① (国費)
	提案事業合計(B)	5,000.000	B (事業費)		2)式で求まる額(5/9*A)	223,333.333	② (国費)
	合計(A+B)	407,000.000	(事業費)		上記①、②の小さい方	162,800.000	③ (国費)
	提案事業割合(B/(A+B))	0.013			国費率(③÷(A+B))	0.400	④ (国費率)

○拡充の有無

以下の3つの拡充のうち、いずれかの拡充がある場合は、該当する欄に○を記入し、事業費等を入力。

・3)式の適用[提案事業2割拡充]		(選択)	⇒	3)式で求まる額(5/8*A)	0.000	⑤ (国費)
・平成20年度二次補正予算の執行		(選択)		3)式の適用後(適用がある場合は3式反映)	162,800.000	⑥ (国費)
・4)式の適用[都市再生緊急整備地域等の45%拡充]		(選択)		3)式適用後の国費率(⑥÷(A+B))	0.400	⑦ (国費率)

○拡充がある場合の事業費等

平成20年度二次補正の執行がある場合及び4)式の適用がある場合は、以下に事業費等を入力。

平成20年度二次補正の執行がある場合	防災対象事業(A')		A' (事業費)	⇒	③をA'に置き換えた額(A⇒(A-A')+9/8*A')	162,800.000	⑧ (国費)
	補正予算の執行額		(国費)		執行額を足した額	162,800.000	⑨ (国費)
					補正適用後(上記⑧、⑨の小さい方)	162,800.000	⑩ (国費)
					補正適用後の国費率(⑩÷(A+B))	0.400	⑪ (国費率)

4)式の適用を受ける場合	計画の認定等の年度末までの執行事業費(F)		F (事業費)	⇒	適用前の国費率(⑩÷(A+B))	0.400	⑫ (国費率)	
	適用対象となる交付対象事業費(A''+B'')	0.000	(事業費)		⇒	適用対象事業費から求まる限度額	0.000	⑬ (国費)
	適用対象となる基幹事業合計(A'')		A'' (事業費)			適用後の国費率(⑬÷(A''+B''))	#DIV/0!	⑭ (国費率)
	適用対象となる提案事業合計(B'')		B'' (事業費)			4)式適用後の限度額(⑫×F+⑭×H)	#DIV/0!	⑮ (国費)
	適用対象事業のうち翌年度以降の執行事業費(H)		H (事業費)					

※4)式の適用を受ける場合で、経過措置を適用しない場合(H21以降新規地区)は、Fの欄を記入せず、A''、B''を記入し、A''=A、B''=B、H=A''+B''=A+Bとなる。

↓

拡充も考慮した交付限度額	162,800.000	⑯ (国費)
--------------	-------------	--------

○交付限度額、国費率の算出

交付対象事業費(A+B)	407,000.0	(事業費)	社会資本整備総合交付金交付要綱に掲げる式による交付限度額(⑯を1万円の位を切り捨て)	162,800.0	⑰ (国費)
				国費率	0.400

道路

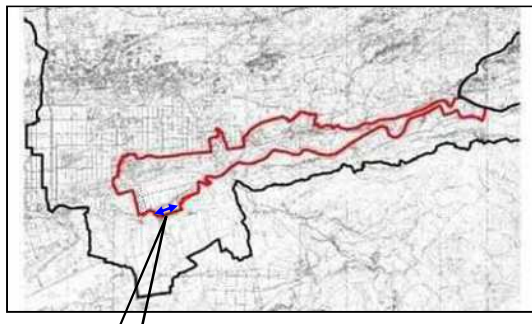
[illegible]

(参考)

[illegible]

■基幹事業【道路（町道）】 （仮称）町道岩坂南2号線

【位置図】



【整備概要】

事業期間:平成29～令和2年度
事業内容:延長500m、幅員6m
事業費:110百万円

【整備目的】

当該集落地は、東西に長い集落地を形成し、県道瀬田熊本線が避難経路及び緊急輸送路となる。しかし、県道瀬田熊本線は、浸水想定区域となっている。また、災害時には交通の集中や道路寸断による代替路線の確保が求められるが、一部地区では道路環境が悪いなどの問題がある。そこで、災害時の代替路線として、町道の整備を進める。

【事業内容】

- ・用地買収
- ・補償
- ・道路改築（拡幅 延長 500m 幅員 6m）

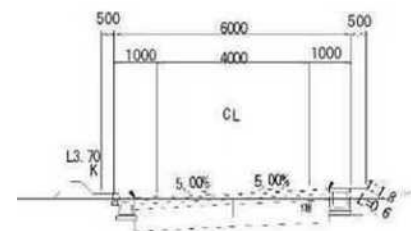
【事業効果】

道路拡幅、舗装の改築により、円滑な道路交通が確保される。特に、災害時には代替路線としての役割を持つ路線であることから、地区の安全安心な市街地形成が進む。

【現況写真】

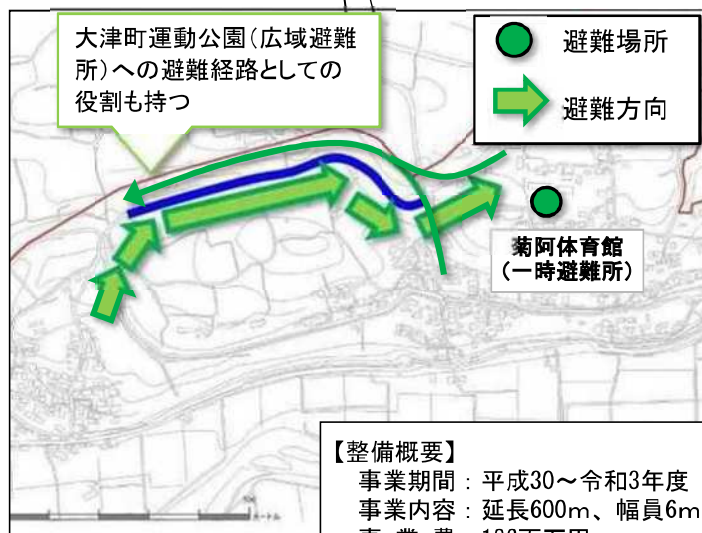
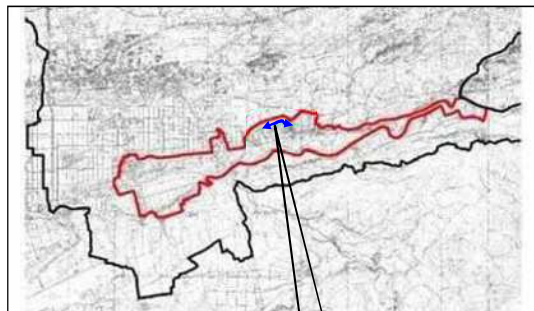


【整備イメージ(標準断面)】



■基幹事業【道路（町道）】 町道瀬田駅吹田線

【位置図】



【整備目的】 地域間の連携など、定住の場として魅力的な市街地形成を図るため、町道の改築整備を進める。加えて、地域住民の避難経路の確保、また地域の安全安心な市街地形成に向けて町道の整備を進める。

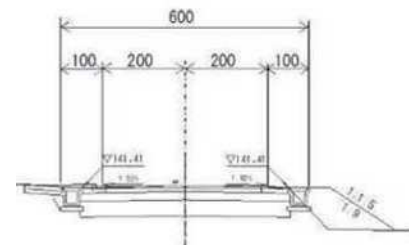
【整備内容】 ・用地買収 ・補償
・道路改築（拡幅 延長 600m 幅員 6m）

【事業効果】 道路拡幅により、地区内の道路ネットワークが形成され、円滑な交通が達成される。加えて、住民の避難経路が確保され、地区の安全安心な市街地形成が進む。

【現況写真】



【整備イメージ(標準断面)】



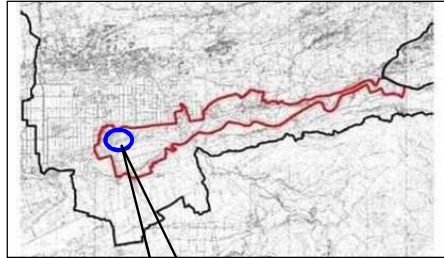
地域生活基盤施設

単位:百万円

交付対象施設	施設名 (路線名等)	事業主体	概要 (面積、幅員、 延長、規模等)	交付期間内 事業費	交付期間内事業費内訳				備考
					設計費	用地費	施設整備費	うち購入費	
緑地								－	
広場	(仮称)南部地区 交流広場	大津町	2,100㎡	135	10	85	40	－	・多目的広場 ・トイレ1基
駐車場									
自転車駐車場									
荷物共同集配施設									
公開空地								－	
情報板	サイクリングロード 観光案内板 誘導サイン	大津町	サイクリングロード用 ・観光案内板:5箇所 ・誘導サイン:5箇所	6			6	－	
地域防災施設	施設種別:防災用 資機材倉庫	大津町	・資機材倉庫	15			15		
人工地盤								－	
合計	－	－	－	156	10	85	61		

■基幹事業【地域生活基盤施設】（仮称）南部地区交流広場

【位置図】



【事業概要】

事業期間：平成28～令和3年度
事業内容：広場整備 A=2,100㎡
多目的トイレ
事業費：135百万円

【整備目的】 江藤家住宅は、現在も住居となるため、訪れる人に対する休憩スペース等の滞在機能が不足している。そこで、江藤家住宅へ訪れる人の憩い空間として（仮称）南部地区交流広場を整備する。加えて、様々なイベント活動等が開催出来る場としての活用も図る。

【整備内容】 ・用地買収 ・補償 ・施設設計
・広場整備
・トイレ整備

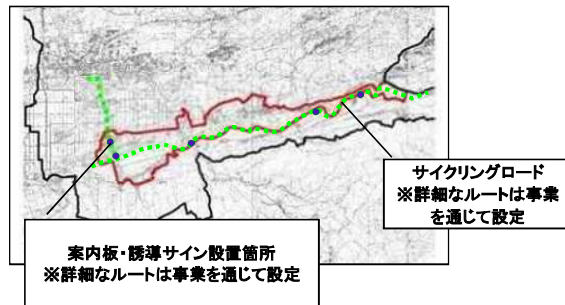
【事業効果】 江藤家と一体となった広場の整備により、地区のシンボル性が高まる。また、訪れる人の休憩及び滞留空間となるなど、当該施設への訪れやすさが向上する。
加えて、地域住民の活動拠点及び避難場所としての活用を図ることで、地域住民の交流や地域の安全・安心な市街地形成に寄与する。

【整備イメージ】



■基幹事業【地域生活基盤施設】 サイクリングロード観光案内板・誘導サイン

【位置図 ※主要箇所】



【事業概要】

事業期間：平成31～令和2年度
事業内容：案内板・誘導サイン
事業費：6百万円

【整備目的】 サイクリングロードの整備にあわせて、訪れる人にとって分かりやすい方向案内や施設案内の表示をするため、誘導サインを整備する。

また、サイクリングロード沿いに分布する文化・自然資源へ人を誘導するとともに、各資源の情報発信のため観光案内板を整備する。内容やデザインはワークショップなどで地域住民の意見を取り入れながら検討する。

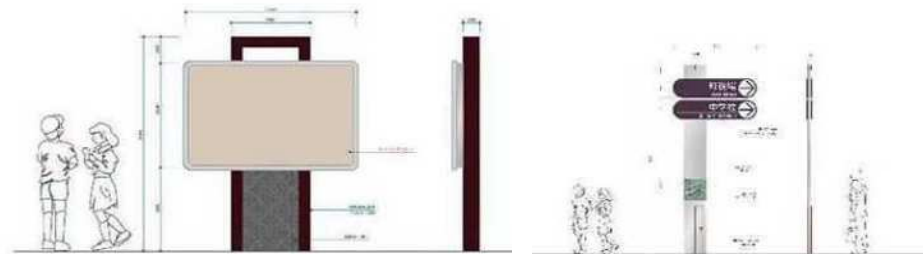
サイクリングロード用

【整備内容】

- ・観光案内板整備
- ・誘導サイン整備

【事業効果】 誘導サインの整備により、わかりやすく、魅力あるまちとなるなど、地区内の回遊性が向上する。また、案内板の整備により、地区の回遊性が高まる。また、各種資源の情報発信にもつながり、地区を知ってもらう機会（興味や関心）が高まる。

【整備イメージ】



■基幹事業【地域生活基盤施設】 防災用資機材倉庫整備

【位置図】



【整備概要】

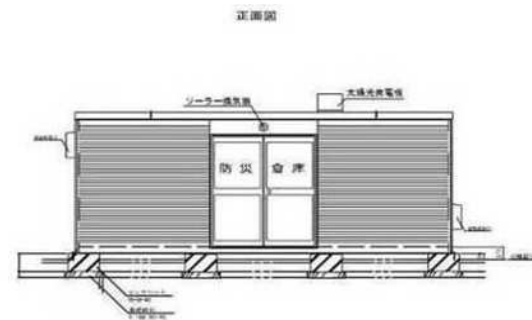
事業期間：平成29年度
 事業内容：防災用資機材倉庫
 施工内容：換気扇、照明等については、
 太陽光にて賄う。
 事業費：15百万円

【整備目的】 平成24年の九州豪雨災害により、当該集落地区の防災用機材倉庫が壊れたため、災害時の安全性や安心なまちづくりにおいて、課題を有している。そこで、新たに防災用資機材倉庫を避難所である菊阿体育館の敷地内に整備する。

【整備内容】・防災用資機材倉庫

【事業効果】 防災用資機材倉庫の整備により、地震や風水害等の災害に備えた、食糧や日用品などの備蓄や災害時初動応急資機材等が確保され、地域の安全・安心が向上する。

【整備イメージ】



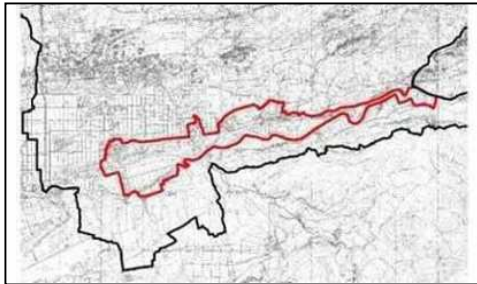
事業活用調査・まちづくり活動推進事業・地域創造支援事業

(単位:百万円)

[illegible]

□提案事業【地域創造支援事業】（仮称）南部回遊マップ作成

【位置図 ※地区全域】



【事業概要】

事業期間：令和2年度
事業内容：マップ作成、印刷等
事業費：5百万円

【整備目的】 観光ルートとなるサイクリングロードの構築に向け、モニター調査（関連事業）、住民ワークショップ等を通じて、地域資源のプロット、回遊ルート等を記載した（仮称）回遊マップ（※南部サイクルマップ）の作成を進める。

【事業内容】 ・マップ作成
・マップ印刷

【事業効果】 マップにより、地区の回遊性が高まる。また、地域に分布する各種資源の情報発信にもつながり、地区を知ってもらう機会（興味や関心）が高まる。

【イメージ】



社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称: 大津町南部観光地区都市再生整備計画 事業主体名: 熊本県大津町

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○